

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名		科目名		国語表現		学年	単位数
国語				■必修 □選択		3年	2単位
使用教科書		国語表現				使用教室	
		50 大修館		701		HR教室	
学習の目標		言葉を使いこなす力、正確に伝える力、相手を説得する力、わかりやすく説明する力、議論して物事をまとめる力など、実社会を生きる上で必要とされる表現力を身につける。また、言葉の感覚を身につけ、語彙力を高めるための言葉遊びやパンフレット等の制作などの活動を通して、言語表現を楽しむ。					
評価		評価法	・授業態度・発問評価・提出課題(学習プリント[毎時間]・作文・制作物)・スピーチ・定期考査などを基に総合的に評価する。				
		評価観点の趣旨	a	知識・技能	言葉に関する基本的なルールや正しい敬語の使い方を身につけている。また、手紙や電話、インターネットなどを様々なメディアをその用途に応じて使いこなす能力を身につけている。		
			b	思考・判断・表現	自分の伝えたいことを文字や言葉で表現し、他者とコミュニケーションを取る能力を身につけている。自分の意見の理由・根拠を示しながら論理的に文章を書く力、自分をアピールする力を身につけている。		
			c	主体的に学習に取り組む態度	作文やスピーチ、ポスターなどの制作に積極的に取り組んで期限内に提出するとともに、授業中の発問に対する発表、授業プリントの提出など、日々の学習に対して真摯な取り組みができています。		
		上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	6	言葉と表記	・仮名遣いの決まり(送り仮名、漢字の表記、慣用表現) ・整った文を書く(係り受け、文のねじれ、常体と敬体) ・相手に応じた言葉遣い(言葉のニュアンス、誤った表現)	提出プリント 中間テスト 期末テスト	ニュース記事・小論文の提出作品 自己紹介の内容 中間テスト 期末テスト	提出プリント 授業中の発問に対する答え 各課題の取り組み状況
	5	6	伝える、伝え合う	・わかりやすい文(読点の打ち方、曖昧な文の忌避) ・文のつながり(接続詞の種類と働き、文脈による接続) ・自己紹介ゲーム(相手に応じた自己紹介、他己紹介)			
	6	7	伝える、伝え合う	・言葉のストレッチ体操(声を届ける、傾聴のレッスン)・絵や写真を見て書く(配置の説明、形の説明) ・マイニュース記事を書く(情報整理、原稿を書いて発表)			
	7	4	小論文・レポート入門	・小論文とは何か(小論文の基本的な構成、構成メモの作成、執筆と推敲)			
2学期	9	8	小論文・レポート入門	・反論を想定して書く(対立意見を想定する、理由を吟味する、構成メモを作る、執筆・推敲) ・文章を読み取って書く(文章を読む、要約する、構成メモを書く、小論文を書く)	提出プリント 中間テスト	小論文等の提出作品 内容	提出プリント 授業中の発問に対する答え
	10	7	小論文・レポート入門	・統計資料を読み取って書く(統計資料を読んで分析する、構成メモを書く、執筆・推敲) ・発想を広げて書く(思い浮かぶ言葉をメモする、「逆転の発想」メモを作り内容を整理する、構成を考え執筆する)			

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2 学期	11	8	小論文・レポート入門	・レポートを書く(テーマを決める、調査をする、構成メモを作る、メモに沿って執筆する) ・論文を書くために(構想を練り仮説を立てる、調査・分析、アウトライン作成、参考文献の示し方、注の付け方)	↑ 続き	↑ 続き	↑ 続き
	12	4	小論文・レポート入門	・論文を書く(執筆・推敲)	期末テスト	レポート・論文の提出内容 期末テスト	各課題の取り組み状況
3 学期	1	7	メディアを駆使する	・通信文を書き分ける(通信文の種類、手紙の基本的な形式、通信文での言葉遣い、頭語と結語、時候の挨拶) ・電話を使いこなす(電話のマナー、電話での言葉遣い)	提出プリント 期末テスト	手紙の書き方 電話のかけ方(敬語) 期末テスト	提出プリント
	2	8	メディアを駆使する	・電子メールを活用しよう(電子メールの性質、電子メールのトラブル、電子メールのエチケット) ・ネット社会との付き合い方(ネット利用の留意点) ・ネットを利用した情報収集(情報の信頼性と留意点)			各課題の取り組み状況
	3	5	メディアを駆使する	・メディアと情報(メディアを比較する、メディアリテラシーを身につける、複数のメディアを比較する)			授業中の発問に対する答え

担当者からのメッセージ(学習方法など)

国語表現ではテストも実施しますが、それぞれの課題(作文・論文やレポート課題、スピーチ等)の提出・取り組み状況を重視した評価になります。課題が提出されない場合は大幅減点、もしくは欠点になります。欠席をなくし、確実に提出してください。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名		科目名		歴史総合	学年	単位数
地理歴史				■必修 □選択	3年	2単位
使用教科書		歴史総合			使用教室	
		7 実教 704			HR教室	
学習の目標		社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。				
評価	評価法	・授業態度・発問評価・提出課題・小テスト・定期考査などを基に総合的に評価する。				
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。		
		b	思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	6	歴史への扉 第1編近代化と私たち 第1章 近代化への胎動	・17世紀を含めた18世紀とその前後の日本やアジアにおける生産と流通、江戸幕府の4つの口や周辺地域との貿易などを基に、18世紀の日本からみた東アジアの政治・経済と社会を理解する。	確認問題	演習問題	授業の取り組み状況
	5	7	第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	・18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国における生産と流通、アヘン戦争やペリー来航をはじめアジアと欧米諸国の関係などを基に、18世紀とその前後の世界の政治と社会を理解する。	中間考査	中間考査	振り返り

(裏に続く)

1 学期	6	8	第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成	・19世紀後半のヨーロッパの動きと日本の明治政府の政策、日本と欧米諸国の外交関係などを基に、19世紀後半のヨーロッパと日本との経済と社会を理解する。	期末 考查	期末 考查	
	7	5	第4章 帝国主義の時代	・19世紀から20世紀初頭にかけてアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の進出などを基に、19世紀から20世紀初頭にかけてのアジアの政治と社会を理解する。			
2 学期	9	8	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。	確認 問題	演習 問題	授業 の取 組 み 状 況
	10	7			中間 考查	中間 考查	振り 返り
	11	7	第6章 経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解する。また、第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	期末 考查	期末 考查	
	12	5					
3 学期	1	6	第3編 グローバル化と私たち 第7章 冷戦と脱植民地	・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解している。西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。	学年 末考 査	学年 末考 査	授業 の取 組 み 状 況 振り 返り
	2	6	第8章 多極化する世界	・石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解している。冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。			
	3	5	第9章 グローバル化と現代世界	・歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解する。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

近現代の歴史的事象を理解し、実際の社会の課題と向き合う力を身につけることを目指す教科です。日常の社会の動きに興味をもってください。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名		数学Ⅰ		学年	単位数
数学		■必修 □選択		3年	1単位
使用教科書		新 高校の数学Ⅰ		使用教室	
		104 数研 716		HR教室	
学習の目標	集合と命題、データの分析について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
評価	評価法	定期考査、提出プリントの内容(毎時)、授業での取り組む姿勢、復習問題・チャレンジ問題、振り返りシートで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程から考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を示している。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
1学期	4月	3	第4章 集合と命題 1. 集合	共通部分、和集合、空集合を理解している。 ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して考察することができる。	復習問題 提出プリント 中間考査	チャレンジ問題 中間考査	授業の発表と取組状況 振り返り
	5月	2	2. 集合と命題	命題の意味を理解している。 集合の包含関係や反例を調べるなどして、命題の真偽を判定することができる。			
		1					
	6月	4	3. 必要条件と十分条件	十分条件、必要条件及び必要十分条件の意味を理解している。 逆、対偶の意味を理解し、命題の逆、対偶を作ることができる。 対偶の真偽はもとの命題の真偽と一致することを理解している。	期末考査	期末考査	課題学習での考察
	7月	1	課題学習	論理パズルに挑戦しよう 論理パズルで答えを導いた根拠を、論理的に説明することができる。			

(裏に続く)

期	月	時 数	学習項目・ 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2 学 期	9 月	4	第5章 データの分析 1. データの整 理	階級, 度数などの用語を理解し, データを度数分 布表にまとめ, ヒストグラムをかくことができる。 データを整理して全体の傾向を考察しようとする。	復習 問題 提出 プリン ト	チャレ ンジ 問題	授業 の 発表 と 取組 状況
	10 月	3	2. データの代 表値	最頻値, 中央値, 平均値の定義や意味を理解し, それらを求めることができる。	中間 考查	中間 考查	振り 返り
	11 月	3	3. データの散 らばり	四分位数の定義を理解し, 四分位数を求めること ができる。 箱ひげ図をかくことができる。	期末 考查	期末 考查	
	12 月	2	4. データの相 関	散布図を作成することができる。 散布図をもとに, データの相関を考察することが できる。			
3 学 期	1 月	3			復習 問題	チャレ ンジ 問題	授業 の 発表 と 取組 状況
	2 月	3	5. 仮説検定の 考え方	仮説検定の考え方を理解している。	提出 プリン ト		
	3 月	1	課題学習	ぴったり10秒で止めよう ストップウォッチの記録データを度数分布表や箱 ひげ図に表して分析することができる。	学年 末 考查	学年 末 考查	振り 返り

担当者からのメッセージ(学習方法など)

集合と命題、データの分析を新しく学習します。コンビニのPOSシステム等、身近な生活の中に関連
がある内容です。
授業に自分から参加する姿勢でしっかりと取り組んで、活用できるようにしましょう。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名		化学基礎		学年	単位数
理科		■必修 □選択		3年	2単位
使用教科書		高校化学基礎		使用教室	
		7 実教	705	HR教室	
学習の 目 標	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。				
評 価	評価法	主体的に物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	科学的に探究する方法を理解するとともに、身近な物質の探究に必要な基本操作を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	身近な物質の探究に関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考え方を的確に表現している。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	身近な物質の探究に関する事物・現象に主体的に関わり、それらに対する気付きからさらに探究しようとする態度を身に付けている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1学期	4月	6	物質の探求	物質の性質と分離 物質の成分 ・身近な物質を探究する活動を通して、物質を対象とする学問である化学の特徴について理解する。	定期テスト 授業中の発問	演習問題 定期テスト	授業プリント内の振り返り 定期テスト
	5月	10	物質の構成粒子	原子の構造・電子配置と周期表 ・元素を確認する実験などを行い、単体、化合物について理解する。 ・原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解する。 ・元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。			
	6・7月	10	物質と化学反応	イオンとイオン結合・金属と金属結合 ・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。 ・イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解する。 ・金属の自由電子の理解する。 ・展性・延性・金属光沢を理解する。 分子と共有結合 ・分子からなる物質の性質を理解する。			
2学期	9月	10	物質と化学変化	原子量・分子量・物質質量 ・物質質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。 ・化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 化学反応における量的関係を物質質量を基本的に質量、体積にまで応用できる知識や計算を習得させる。	定期テスト 授業中の発問	演習問題 定期テスト	授業プリント内の振り返り 定期テスト
	10月	10					

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・ 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2 学期	11・12月	16	物質質量と化学変化	化学変化の量的関係 ・物質質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。 物質質量と化学反応式についての観察、実験を行い、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現させる。	定期テスト 授業中の発問	演習問題 定期テスト	授業プリント 内の振り返り 定期テスト
			酸と塩基	酸と塩基・水素イオン濃度とpH 酸と塩基の定義と具体例を理解する。 水素イオン濃度とpHの関係を理解する。 対数計算の演習をする。			
3 学期	1月	8	酸と塩基	中和反応と塩の生成 中和反応の量的関係と中和滴定 酸と塩基の中和における量的関係を物質質量で理解させる。 化学反応における電子のやり取りを理解する。	定期テスト 授業中の発問	演習問題 定期テスト	授業プリント 内の振り返り 定期テスト
	1・2月	10	酸化と還元	酸化と還元の定義 酸化数の定義 酸化・還元化学式 ・酸化と還元が電子の授受によることを理解する。また、酸化還元反応と日常生活や社会との関わりについて理解する。			
	3月	2		酸化還元反応の利用 ・身近な生活にどのように酸化還元反応が利用されているか理解する。	定期テスト 授業中の発問	まとめ プリント設問	まとめ プリント内容

担当者からのメッセージ(学習方法など)

化学基礎でも単元ごとに中学校の復習内容も入れることがあります。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名		科目名		体育	学年	単位数
体育				■必修 □選択	3年	2単位
使用教科書		現代高等保健体育			使用教室	
		50 大修館 701			体育館など	
学習の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図ることができるようになる。					
評価	評価法	自己の体調を考えながら、積極的に授業に参加している様子などを観察し、技能テスト・理解度テスト、学習ノートや振り返りシートを加味して評価します。				
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。		
		b	思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて試行し判断するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して攻勢に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持ち、健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1学期	4月	3	体づくり運動	簡単な体ほぐしの運動として、仲間と楽しくできる手軽な運動を行う。また、体の柔らかさや力強い動き、動きを持続する運動などを考え、仲間とともに運動できる。	技能テスト・理解度テスト・観察	学習ノート観察	観察・振り返りシート
	5月	3	陸上競技	短距離走や長距離走の記録の向上をめざし、仲間とともに協力して、自己の課題を発見し、解決のために工夫して練習できる。			
	6月	6	選択授業1(3種目中1種目選択)	ネット型球技を選択し、2年次に身に付けた技能をさらに向上させるとともに、空いたコートに打ち返すことができるようになる。練習やゲームを通して、仲間と協力しながら安全に学習できる。(バドミントン・卓球・バレーボール)			
	7月						

(裏に続く)

期	月	時 数	学習項目・ 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2 学 期	9 月	2	体づくり運 動	簡単な体ほぐしの運動として、仲間と楽 しくできる手軽な運動を行う。	技能 テスト・ 理解度 テスト・ 観察	学習 ノート 観察	観 察・ 振 り 返 り シ ー ト
	10 月	4	選択授業1 (3種目中1 種目選択)	ネット型球技を選択し、2年次に身に付 けた技能をさらに向上させるとともに、空 いたコートに打ち返すことができるように なる。練習やゲームを通して、仲間と協 力しながら安全に学習できる。(バドミ ントン・卓球・バレーボール)			
	11 月	6	選択授業2 (2種目中1 種目選択)	ゴール型球技を選択し、2年次に身に付 けた技能をさらに向上させるとともに、味 方の動きに合わせてパスが出せるよう になる。練習やゲームを通して、仲間と 協力しながら安全に学習できる。(バス ケットボール・フットサル)			
3 学 期	1 月	4	体育理論	運動やスポーツの技能と体力及びスポー ツによる傷害、スポーツの技術と技能及び その変化、運動やスポーツ技能の上達課 程、運動やスポーツ活動時の健康安全の 確保について理解する。	技能 テスト・ 理解度 テスト・ 観察	学習 ノート 観察	観 察・ 振 り 返 り シ ー ト
	2 月	4	選択授業2 (2種目中1 種目選択)	ゴール型球技を選択し、2年次に身に付 けた技能をさらに向上させるとともに、味 方の動きに合わせてパスが出せるよう になる。練習やゲームを通して、仲間と 協力しながら安全に学習できる。(バス ケットボール・フットサル)			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

安全に注意して、みんなで協力し合いながら、学習しましょう。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名		英語コミュニケーションⅡ		学年	単位数
外国語		■必修 □選択		3年	2単位
使用教科書		COMET English CommunicationⅡ		使用教室	
		104 数研 717		HR教室	
学習の目標		1. 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 2. 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、書き手の意図を把握することができるようにする。 3. 日常的な話題について、使用される語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 4. 日常的な話題について、使用される語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。 5. 日常的な話題について、使用される語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。			
評価		評価法	定期考査、授業プリント、授業態度、発表内容により評価します。		
		評価観点の趣旨	a	知識・技能	・英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、学習している話題について理解したり伝えたりする技能を身につけている。
			b	思考・判断・表現	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて学習している話題について、必要な内容を読みとったり聞きとったりして、その要点を捉え、書いたり話したりすることで伝えあっている。
			c	主体的に学習に取り組む態度	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的・自律的に学習活動に取り組んでいる。
		上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。			

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1学期	4月	5	Lesson1	・材料:行ってみた場所 ・文法:want など + 人 + to do ・目標:言ってみた場所を英語で紹介する。	提出プリント	授業の発表内容	授業の取り組み
	5月	8	Lesson1 Lesson2	・材料:行ってみた場所 ・文法:want など + 人 + to do ・目標:言ってみた場所を英語で紹介する。 ・材料:動物写真家 岩合光昭 ・文法:疑問詞 + to do ・目標:好きな写真を英語で紹介する	中間考査	中間考査	提出プリント

(裏に続く)

期	月	時 数	学習項目・ 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	6 月	9	Lesson2 Lesson3	・材料:動物写真家 岩合光昭 ・文法:疑問詞 + to do ・目標:好きな写真を英語で紹介する ・材料:ハカ ・文法:分詞 ・目標:世界の文化を英語で紹介する	提出 プリント 期末 考查	授業の 発表内 容 期末考 査	授業 の取り 組み 提出 プリン ト
	7 月	3	Lesson3	・材料:ハカ ・文法:分詞 ・目標:世界の文化を英語で紹介する			
2 学期	9 月	7	Lesson4	・材料:デジタルデトックス ・文法:if節・疑問詞節 ・目標:デジタル機器との関わり方について、自分の考 えを英語で述べる。	提出 プリン ト	授業の 発表内 容	授業 の取り 組み
	10 月	8	Lesson4 lesson5	・材料:デジタルデトックス ・文法:if節・疑問詞節 ・目標:デジタル機器との関わり方について、自分の考 えを英語で述べる。 ・材料:目標設定 ・文法:seem ・目標:目標を英語で述べる	中間 考查	中間考 査	提出 プリン ト
	11 月	8	Lesson5 Lesson6	・材料:目標設定 ・文法:seem ・目標:目標を英語で述べる。 ・材料:高校生美容室 ・文法:助動詞+have+過去分詞 ・目標:就きたい職業を英語で述べる	提出 プリン ト 期末 考查	授業の 発表内 容 期末考 査	授業 の取り 組み 提出 プリン ト
	12 月	3	Lesson6	・材料:高校生美容室 ・文法:助動詞+have+過去分詞 ・目標:就きたい職業を英語で述べる			
3 学期	1 月	6	Lesson7	・材料:パリのレジ袋撤廃運動 ・文法:過去完了形・目標:環境のためにできることを英 語で述べる。	提出 プリン ト	授業の 発表内 容	授業 の取り 組み
	2 月	8	Lesson7	・材料:パリのレジ袋撤廃運動 ・文法:過去完了形 ・目標:環境のためにできることを英語で述べる。	学年 末考 査	学年末 考查	提出 プリン ト
	3 月	3	Lesson7	・材料:パリのレジ袋撤廃運動 ・文法:過去完了形 ・目標:環境のためにできることを英語で述べる。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

新しい教科書になります。授業で毎回配るプリントを完成して提出してください。考查はすべて学習したことから出題します。授業には積極的に参加してください。積極的でない行為は禁止です。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名		科目名		実習	学年	単位数
工業				■必修 □選択	3年	3単位
使用教科書		実習 自主編成プリント			使用教室	
					機械科 実習棟	
学習の 目 標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。					
評 価	評 価 法	各パートで学ぶ知識・技術の習得、作品の出来栄え及び各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を評価する。また、課題作品・レポート等の提出物についても評価する。				
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技術	機械に関する基礎的な知識・技術を身につけ、安全や環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理できる技能を身に付ける。		
		b	思考・判断・表現	機械技術に関する諸問題の適切な解決を目指し、自ら考え、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫をする能力を身に付ける。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	機械に関する基礎的技術に関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに社会の発展を図る創造的実践的な態度を身に付ける。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・ 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1	4		オリエンテーション	概要説明、安全作業、心構え、ローテーション(2班編成を輪番)等	実 技 レ ポ ー ト	作 業 レ ポ ー ト	作 業 観 察
	5		ガス溶接	酸素、アセチレンの特性と器具の取扱い ガス溶接作業とガス切断作業の基本操作			
	6	各班 3 時間 × 3回	旋 盤	安全作業 旋盤の構造と機能 バイトの取り付け(片刃バイト・突っ切り・剣バイト) テーパ加工・豆ジャッキの製作			
	7		電気・製図	電気実習 電気工事基礎			

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・ 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2	9	各班 3時間 × 3回	各種溶接	半自動溶接の基本操作 スポット溶接・プラズマ切断の構造や基本操作	実技 レポート	実技 レポート	作業 観察
	10		旋 盤	安全作業について 旋盤作業の基本操作(端面削り・外丸削り) 段付け加工・ドリルによる穴あけ加工			
	11		電気・製図	マルチメータの使い方 抵抗の読み方とオームの法則 LEDを用いた電子回路			
	12	各班 3時間 × 3回	溶接	課題作品「容器」の製作・研磨作業	実技 レポート	作業 レポート	作業 観察
3	1		旋 盤	課題作品「豆ジャッキ」の製作 研磨・組み立て			
	2		電気・製図	製図実習 製図の基礎 作図の基礎			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

各班(2班または3班)に分かれて、1パート3時間×3回として3パートを年間3回ローテーションして学習する。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名		科目名 機械設計 ■必修 □選択			学年	単位数
工業					3年	2単位
使用教科書		機械設計1			使用教室	
		7 実教 工業 710			HR教室	
学習の 目 標	機械設計に関する基礎的な知識と技術を習得させ、機械・器具などを創造的、合理的に設計する能力と態度を育てる。					
評 価	評価法	定期考査、提出物、授業中の取り組み姿勢などを総合的に評価する。				
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	機械設計に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、実際に設計する際に必要となる、計画・構想・実践までを適切に行う力を養う。		
		b	思考・判断・表現	機械設計に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的な知識を活用して創意工夫し、その成果を的確に表現する力を養う。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	機械設計に関する原理、理論および計算の基礎的・基本的な内容を重視し、現実的な設計技術に関心を持ち、創造的に機械を設計する能力と意欲的に取り組む実践的な態度を身につける。		
	上に示す観点に基づいて評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末は観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	10	第1章 1節 機械の仕組み 2節 機械設計	機械の装置を製作するための「設計」に必要な、様々な装置のメカニズムを理解し、機械要素について学習を進める。また、機械を設計する際に必要な、「力」の合成や分解について学ぶ。	ノ ー ト 提 出	考 査 (プ リ ン ト 提 出)	取 り 組 み 姿 勢
	5		第2章 1節 機械に働く力 ・力の合成と分解				
2学期	6	12	第2章 1節 機械に働く力 ・力のモーメント ・力のつり合い 2節 運動 3節 力と運動の法則	力のモーメントと偶力について学び、さらに力のつり合い等から、設計時での活用に活かす。運動の三原則を理解し、運動する物体と力の間にある関係性を学ぶ。	ノ ー ト 提 出	考 査 (プ リ ン ト 提 出)	取 り 組 み 姿 勢
	7						
	9	8	第2章 4節 仕事と動力 ・仕事 ・道具や機械の仕事 ・エネルギーと動力	物体を動かす力について理解し、機械に必要なエネルギーや動力について学ぶ。また「滑車」や「動力」について効率よく力を利用する方法について学習する。	ノ ー ト 提 出	考 査 (プ リ ン ト 提 出)	取 り 組 み 姿 勢
	10	10	第2章 5節 摩擦と機械の効率 第3章 材料の強さ ・荷重				
3学期	11	8	第3章 6節 ・はりの種類と荷重 ・剪断力と曲げモーメントおよびその図示 ・曲げ応力 ・断面二次モーメント	機械や構造物などは曲げ作用を受けているものが多くある。曲げ作用を受けると、どのような応力が生じ、どのように変形が起こるかを考える。また、曲げ作用に対して強い断面形状についても学び、設計時の材料の選定が的確にできる力をつける。	ノ ー ト 提 出	考 査 (プ リ ン ト 提 出)	取 り 組 み 姿 勢
	12						
3学期	1	12	第4章 安全・環境と設計	現代社会では、日々の生活はより便利に快適になった。それは、技術者が知識と良心に基づき安全を確保する設計を行っているからである。これからの機械設計は、地球規模でエネルギー消費や環境汚染などを減じる環境対応を考えるにはどうすればよいか、考える。	ノ ー ト 提 出	考 査 (プ リ ン ト 提 出)	取 り 組 み 姿 勢
	2						
3学期	3	12			ノ ー ト 提 出	考 査 (プ リ ン ト 提 出)	取 り 組 み 姿 勢

[illegible]

担当者からのメッセージ(学習方法など)

日常生活で使われている様々な「機械の装置」は、企画・設計から生産まで多くの人が関わり、多くの資源やエネルギーを使います。また、各製造工程の環境は、技術の高度化、情報化、資源の再利用化やグローバル化など日々変化しています。機械設計の学習にあたっては、これらのことを踏まえた設計が大切であることを理解し、機械設計に必要な専門知識の基礎を中心に学びます。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名		科目名		機械工作		学年	単位数
工業				■必修 □選択		3年	1単位
使用教科書		機械工作1、2				使用教室	
		7 実教		708,709		HR教室	
学習の目標	ものづくりにおける機械に関する興味・関心を深めるため、身近な製品のつくり方を通して、基礎的な知識と技術を習得し、進展する科学技術に柔軟に対応できる能力と態度を育てます。						
評価	評価法	定期考査、提出物、授業中の取り組み姿勢などを総合的に評価します。					
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	・基礎的知識と技術を理解し、現代の工業の発展と役割を理解している。ものづくりでの場面で問題解決を試みようとする相互に関連させて理解している。			
		b	思考・判断・表現	・諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、その成果を表現することができる。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	・身近な製品の工作に関する知識と技術の習得に向けて、意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身に付けている。			
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。						

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	3	第6章 切削加工	1. 切削加工の分類 2. おもな工作機械と切削工具 3. 切削工具と切削条件	ノ ー ト 考 査 提 出	発 展 課 題 考 査 提 出 (プ リ ン ト 提 出)	取 り 組 み 姿 勢 表
	5	5		4. 切削理論 5. 工作機械の構成と駆動装置			
	6	4	第7章 砥粒加工	1. 砥粒加工の分類 2. 研削 3. 砥石車 4. いろいろな研削・研磨			
	7	2		5. 遊離砥粒による加工			
2学期	9	4	第8章 特殊加工と三次元造形技術	1. 特殊加工 2. 熱的な加工 3. 科学的な加工 4. 力学的な加工	ノ ー ト 考 査 提 出	発 展 課 題 考 査 提 出 (プ リ ン ト 提 出)	取 り 組 み 姿 勢 表
	10	4		5. 三次元造形技術			
	11・12	5	第9章 表面処理	1. めっき 2. 化成処理と陽極酸化処理 3. いろいろな被膜処理 4. 鋼の表面硬化			

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・ 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a 考 査 ノ ー ト 提 出	b 考 査 (展 開 課 題 の プ リ ン ト 提 出)	c 考 査 取 組 み 姿 勢
3 学 期	1 2 ・ 3	3	第10章 生産計 画・と生産の効率 化	1. 生産計画と管理 2. 生産を支える管理システム			
		5		3. 品質管理と検査 4. 安全と環境管理 5. 生産の効率化			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

機械工業は、素材を加工していろいろなものをつくり、人々の生活を豊かにする産業の一つで、つくられた製品はあらゆる分野で利用されています。機械工作では、身近な製品のつくり方を考え、今後の技術革新に対応するための機械工作法を学びましょう。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名		科目名		製図		学年	単位数	
工業				■必修 □ 選択		3年	2単位	
使用教科書		機械製図				使用教室		
		7 実教		702		HR教室/製図室		
学習の目標		製図の規格および製図に関する基礎的な知識と技術を総合的に習得させ、製作図・設計図などを正しく読み、作成する能力を養う。						
評価	評価法	定期考査、提出物、授業中の取り組み姿勢などを総合的に評価します。						
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	機械製図に関する基礎的、基本的な知識と技術を習得するとともに、図面などを正しく読み、作成できる力を身につけている。JIS規格の概要を知り、それらが実際に活用できるように、知識を身につけている。				
		b	思考・判断・表現	機械製図に関する諸問題を把握、考察を深めるとともに、その知識と技術を活用しながら表現する力を身につけている。				
		c	主体的に学習に取り組む態度	機械製図に興味・関心をもち、その意義や役割の理解および諸問題の解決を目指して、主体的に取り組もうとしている。				
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。							

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	6	第1章 製図の基礎 1 機械製図と規格 2 製図用具とその使い方	○製図の基礎 ① 機械製図と規格 ② 製図用具とその使い方 ③ 図面に用いる文字と線 ④ 基礎的な図形のかき方	ノート 発表 図面 考査	ノート 発表 図面 考査	ノート 発表 図面
	5						
	6	10	4 基礎的な図形のかき方 5 投影図のえがき方 6 立体的な図示法 7 展開図	○製作図 「等角投影図の製作」 ○製図の基礎 ① 投影図のえがき方 ② 立体的な図示法	ノート 発表 図面 考査	ノート 発表 図面 考査	ノート 発表 図面
	7	10	第2章 製作図 1 製作図のあらまし 2 図形の表し方	○製図の基礎 ③ 製作図のあらまし ④ 図形の表し方 ○製作図 「等角投影図の製作」 「第三角法による投影図の製作」	ノート 発表 図面 考査	ノート 発表 図面 考査	ノート 発表 図面

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2 学期	9	10	3 寸法記入 4 公差・表面性状 第3章 CAD製図	○製図の基礎 ⑤ 寸法記入法 ⑥ 公差、表面性状 ○製作図 「等角投影図の製作」 「第三角法による投影図の製作」			
	10				ノート 発表 図面 考査	ノート 発表 図面 考査	ノート 発表 図面
	11	8	第4章 機械要素の製図 1 ねじ 2 軸と軸継手	○製作図 ① 公差、表面性状 ② ねじの基本 ③ ボルト・ナット ○製作図 「第三角法による投影図の製作」	ノート 発表 図面 考査	ノート 発表 図面 考査	ノート 発表 図面
3 学期	12						
	1	8	3 軸受 4 歯車 7 溶接継手	○製作図 ④ 歯車の基礎 ○製作図 「第三角法による投影図の製作」			
	2				ノート 発表 図面 考査	ノート 発表 図面 考査	ノート 発表 図面
	3						

担当者からのメッセージ(学習方法など)

正確に素早く美しく。丁寧で正確な図面作成を心がけること。